



夏のお出かけは事故に注意！

夏は、楽しいお出かけも多い分、事故も多いですね。子どもの命を守るのは、そばにいる大人です。あぶない事をしている時はもちろん、しそうな事は事前に話をしてから、出かけましょう。

「こうしてはダメ」ではなく、「こういう時は、こういう風に行動しなさい」と具体的に教えたり、「どうするといいと思う？」と考えさせたりするといいですね。

たとえば道路を歩く時、車から降りてぱっと走って行く子どもには、「走ってはダメ」ではなく「道を歩く時は、お母さんと手をつないで歩きましょう」と具体的に言ったり「車から降りたら、どうするの？」と聞いてみたりします。道路を歩く事に関して言えば、「1年生になった時、一人で安全に歩けるようになっていく事」が目標ですね。

その他の安全に関する事も、大人がしっかり教えてから、出かけましょう。命を守る教育は、子育ての中でも最優先事項と思います。

スポーツ飲料に気をつけて

暑い夏は、熱中症が心配ですね。予防のためスポーツ飲料を飲んでいる人も多いと思いますが、飲み過ぎによる健康被害が報告されていますので、注意が必要です。

スポーツ飲料には糖分がはいっていますが、糖をエネルギーに変換するビタミン B1が入っていない為、飲み過ぎると脚気やウェルニッケ脳症になる場合があるそうです。病気ではない子どもの普段の飲み物は、味の無い水やお茶でいいかもしれません。

「コミュカを育てよう」

昔は「コミュニケーション能力なんて、自然に身につくもの」でした。でも今は、「ほったらかしていたら、コミュ障になるかも」です。

理由は、長くなるので説明しませんが、では、何に気をつけたらいいでしょう。

①子どもの言葉、表情、動作に大人が反応し、言葉をかける。

子どもの動きを、目の端でいつも見ているといいですね。大人の反応する力が大切です。

②子どもの話をゆっくり聞いてやる。

言葉が出ない時は、「・・・だったのね」とフォロー。特に怒り、悲しみ、喜びなど、気持ちを話す事は、子どもにはむずかしいものです。「うれしかった？」と聞いたり、「悲しかったのね」と言ってあげたりすると、だんだん自分の気持ちを話せるようになります。

③いろんな言葉を教える。

一番いいのは本の読み聞かせです。家族や友達との会話だけでは、同じような言葉を使ってしまうがちですが、本には日頃は使わない美しい言葉が、たくさん詰まっています。



地域教育コーディネーター

清田智子

生涯学習課

25-7232